



ドクター 教えて! Doctor

その質問に
私が答えます

何気ないその症状を見逃さないで!
あなたの健康や体の心配に専門医が回答してくれます。



井原第一クリニック
副院長 和田智顕 先生
小児科専門医/アレルギー専門医
地域総合小児医療認定医/医学博士



主婦
きくさん(26歳)

生後6か月の子ですが、生後1か月ごろから乳児湿疹がひどく、最近アトピー性皮膚炎と診断されました。アトピー性皮膚炎について教えてください。



乳児湿疹?

アトピー?

保湿で皮膚のバリア機能を補うことと、
早めに薬で炎症を抑えることが大切。
塗る薬の種類だけでなく、
塗り方がとても重要です。

◎アトピー性皮膚炎とは

皮膚のバリア機能が生まれつき弱いことよって、肘、膝、手首、足首、首周りなどの関節や顔などにかゆみのある「湿疹」が、でたりひいたりを繰り返しながら長期間続く病気です。「湿疹」は軽いものは少しザラザラする程度で、ひどくなるにつれて赤くなったり、かたくゴワゴワになったり、体液がでてジクジクしてきます。これに対して、乳児湿疹は主に顔にでて、かゆみもありません。生後1、2か月だと、乳児湿疹かアトピー性皮膚炎か判別は困難ですが、程度がひどく顔をこすりつけるなど、かゆみがありそのような場合は要注意です。

◎アトピー性皮膚炎の治療

アトピー性皮膚炎の湿疹は、皮膚で「炎症」が起こっている状態と説明されますが、この「炎症」とは皮膚で火事が起こっていると思像してください。この火事を消火するのがステロイドや免疫抑制剤の塗り薬です。治療の基本は、足りない皮膚のバリア機能を保湿剤で補うことよって火事を予防することです。そしていざ火事が起こったら燃え広がる前に「早めに」「たっぷり」の水や消火剤(ステロイドや免疫抑制剤などのぬり薬)を使って消火しましょう。塗り薬はうすく伸ばして塗ると効果がでません。具体



的には、チューブの軟膏を大人の人差し指の先から第一関節まで出した量を1FTUと呼び、この量で、大人の手のひら2枚分に塗り広げます。皮膚の表面がてかてかになつて、ティッシュがくっつくくらいが目安です。ステロイドについては、副作用の心配をされる方が少なくないと思いますが、使用方法、期間などを専門医の指示通りに塗れば、副作用をだすことなく治療可能で、過度に恐れる必要はありません。適切な塗り方の指導ができるアレルギー専門医への受診をおすすめします。

アトピー性皮膚炎の最新の治療として広まりつつあるものに、プロアクティブ療法というものがありません。これは同名のニキビ予防薬とは全く関係なく、炎症が起きないように予防的に免疫抑制剤やステロイドを、週1、2回程度定期的に塗るといふ治療法です。湿疹ができてから薬を塗るよりもコントロールが良く、長期間でみると使用する薬の総量も少なくて済みます。2歳以上であれば、ステロイドではなく、タクロリムスという免疫抑制剤の塗り薬で行うのが主流です。